

小学校道徳部会

部会長名 校長 植村 徹也
実践者名 教諭 木下 直哉

1 研究主題

「多面的・多角的」な考え方を育てる道徳科学習指導の研究
～多様な価値や考え方を認め合う指導方法の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請と新学習指導要領の動向から

平成23年に滋賀県大津市で発生した、いじめを苦にした中学2年生の自殺事件は社会に大きな影響を与え、それが契機となり平成25年議員立法により成立したいじめ防止対策推進法基本的施策の冒頭には、道徳教育の充実が盛り込まれた。平成27年に小学校学習指導要領の一部が改正され、従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として教育課程上に新たに位置付けられることになる。

子ども達が直面する今後の社会は、少子高齢化による生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能（AI）の進化などによる雇用情勢の変化、未曾有の自然災害の発生など、予測困難な時代になることが予想される。そのような中、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展との調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。

学校教育においては、今回の学習指導要領の改訂にあたり、子ども達に求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」、知識の理解の質をさらに高めた確かな学力の育成、道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成することが述べられた。道徳の時間においては、道徳教育の質的転換が提言され、登場人物の心情理解中心の「読み物道徳」から脱却して「考え、議論する」道徳科へと転換し、自分ならどのように行動・実践するかなど道徳的諸価値について多面的・多角的に考えさせ、実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換することが目指されている。

以上のことから、新学習指導要領の全面実施を受け、本主題を掲げた実践研究を行うことは、本郡学校教育の充実を図る上で意義深いと考える。

(2) 本学級の実態から

本学級は、男子14名・女子14名、計28名の学級である。学習意欲が高く、話し合ったり学び合ったりする対話的な学習に進んで取り組むことができる。しかし、自分の考えをもつことが苦手な児童が多く、交流活動の中でも友だちの意見に同調するあまり、多様な意見を出したり認め合ったりすることが不十分であると感じる。自分と異なる意見に向かい合い議論するとき、相手の思いを認め合い、多面的・多角的に考えていく中で、道徳的価値の理解を深めたり広げたりして見方・考え方を発展させていきたい。

3 主題の意味

(1) 「多面的・多角的」とは

平成29年3月31日告示による学習指導要領全面改定後の「特別の教科 道徳」の目標では、従前の「道徳的諸価値についての理解を基に、自己の生き方についての考えを深め」ることの学習活動を具体化して「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と改められている。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説・特別の教科道徳編では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が、多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることの重要性が述べられている。また、このように多面的・多角的に考える学習を通して、児童一人一人は、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、さらに自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育むのであるとされる。

「多面的・多角的」に考える指導のためには、物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが求められる。

そこで、本研究主題における「多面的・多角的」とは

- ① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそれに伴う心情を様々な視点から捉え感じようとしていること
- ② 自分と違う立場や考え方や感じ方を理解しようとしている。
(例：立場を変えてみると、時間を変えてみると、他の道徳的価値から考えると)

以上の二点に焦点化し、実践を行っていく。

(2) 「多様な価値や考え方を認め合う指導」とは

現代の子ども達には、今後、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きる事が求められる。時には対立がある場合を含めて、様々な価値観をもつ他者と対話し、協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を育成することをあらわす。

4 研究の目標

道徳科において、新学習指導要領が目指す「多面的・多角的」な考え方を育成するため の授業改善について究明する。

5 研究仮説

多面的・多角的な教材分析とともに、対話的な「学び方」を工夫すること、また、多様な価値をふり返る活動をもとに授業改善の実践研究を進めていけば、児童が新学習指導要領の目標で定められている「多面的・多角的」な考えを身につけることができるであろう。

- (1) 教材文の中から、多面的・多角的な価値を授業者自身が把握できるように、独自の教材研究シートを作成し、活用する。

- (2) 児童が多様な感じ方や考え方に接することができるように、対話的な学習方法や、表現活動の工夫を行う。
- (3) 学習後に書いた子ども達の感想の中から、多面的・多角的な学びを価値付けることができるように、ふり返りの時間を設けることで、子ども達の気づきを共有する時間を設ける。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) **主題名** きまりの大切さ < C - (12) 規則の尊重 >

資料名 「ここを走れば」 (出典 光村図書)

(2) **主題設定の理由**

○ 規則の尊重とは、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことである。本主題では、法やきまりのもつ意義について考えることを通して、法やきまりが個人や集団が安全かつ安心して生活するためにあることを理解し、それを進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たすという態度を育成することをねらいとしている。しかし、本学級の児童において、法やきまりは自分たちを拘束するものとして考え、自分勝手に反発したり、自分の果たさなければならない義務をなおざりにしたりする行動をとってしまう児童も少なくない。そこで、自他の権利を十分尊重した上で、自らの義務を考え行動することの大切さについて考え、深めさせることは、この時期の児童にとって大変意義深いと考える。

◇視点1 質の高い指導方法に関する視点

- ・ 問題場面について、ネームカードを使い、自己の考えを表現する。

◇視点2 評価を明確にするための視点

- ・ 発言や傾聴、ワークシートの記録によって児童の学習状況を把握する。

(3) **本時のねらい**

父の行動から自他の権利を十分に尊重する中で、自らの義務を考え、進んできまりを守ろうとする態度を養う。

(4) **準備**

ワークシート ネームカード 場面絵

(5) **展開**

段階	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	<p>1 身近な道徳的な問題を基に、本時学習の方向性をつかむ。</p> <p>【きまりは守らないといけない。100%】 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケガや事故につながることになるから。 ・ 周りの人に迷惑がかかるから。 	<p>○ 本時の問題意識をもたせるためにアンケート結果を提示する。</p>

【きまりを守れなかったことがある100%】
(理由)

- ・ そのくらい守らなくても良いと思った。
- ・ 時間ギリギリで仕方なかった。
- ・ 他の人にばれなければ良いと思った。

○ アンケート結果から見える矛盾を本時のねらいへとつなげる。

めあて

きまりの大切さについて、考えよう。

展開
前段

2 教材「ここを走れば」について考える。

(1) 教材「ここを走れば」を読み、今回、路側帯を通るべきかどうかネームプレートを用いて立場を明確にし、議論する。

【今回は路側帯を通っても仕方ない】
「ぼく」「妹」

- ・ 心配で早くおじいちゃんに会いたいから仕方ない
- ・ 今回だけだから…
- ・ 他にも路側帯を走っている車があるから、私達も走って良い。

○ 「ぼく」「妹」「父」がどのような気持ちか考えさせるためにネームカードを貼らせ、なぜそのように考えたのか理由を交流する。

○ 自分だったらどのような判断を行うか。ネームプレートを動かすことで、主人公の思いに共感させる。

○ どちらかの考えに偏った場合は、児童に問い返し、議論する内容を明確にしていく。

【ぼく・妹】・・・みんなきまりは大切って初めに言ってたよね？

【父】・・・おじいちゃんに会えなくなるかもしれないだよ。

◎ きまりをやぶろうと考えていた時の「ぼく」は自分の都合を考えていること。きまりは周りのすべての人のことを考えて決められていることを明確にするためにきまりを懸命に守る「父」の姿を考えさせる。

【今回でも路側帯を通ってはいけない】
「父」

- ・ もし救急車が路側帯を通れなくなったら他の人の命が危ない。
- ・ 交通ルールは絶対に守らないといけないから。
- ・ 私たちが通ったら、他にも走る車が増えてくるから。
- ・ 祖父からきまりの大切さを教えてもらった。

○ 本当に車の中で「おじいちゃんに会いたいと感じていたのは、(ぼく)と(妹)だけなのか考えさせ、(父)も会いたい思いが

(3) 「路側帯を走らないこと」を選んだ父が、大切にしたい思いについて考えることができる。

展開

後段	<p style="text-align: center;">【父の思い】</p> <p>私だっておじいちゃんに会いたい。しかし、私が路側帯を走れば、必ず迷惑になる人がいる。 周りのみんなの安全を守るためにも、きまりを破るわけにはいかない。 もし、救急車が通れなくなったら、他の人の命も危ない目にあわせてしまうことになる。</p>	<p>あることを押さえる。</p> <p>◎大切な人に会えなくなるかもしれない「父」が一番大切にしたい思いについて、考えさせる。</p> 
終末	<p style="text-align: center;">【父が大切にしていたこと】 きまりは、みんなの安心・安全を守るために決められたものなので、どんな時でも守ることが大切である。</p> <p>3 自分たちはきまりを守って生活をしていることを振り返る。</p> <p>4 今日の学習を振り返り、まとめる。</p>	<p>父…他社の権利を十分に尊重する 思い 一生に一度のことにもかかわらず義務を果たす姿</p> <p>○「父」のように相手の権利を大切にして自分も義務を果たす人が増えたらどんな社会になるか、考えさせる。</p> <p>○ 集団登校、授業中の様子などの写真を見て、自分たちは学校や社会のきまりを守って生活していることを改めて確認する。</p> <p>○ 本時の学習で自分の見方、考え方が変わったところ、自分が新しく気づいたことなどを感想に書かせる</p>

(6) 価値内容の分析

「規則の尊重」 C - (12)

低学年	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること
中学年	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること
高学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと

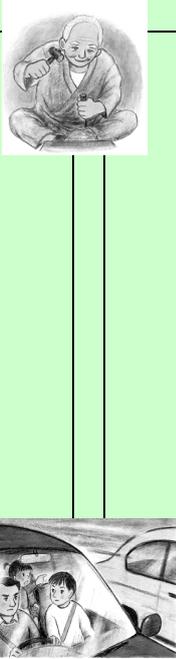
(7) 教材分析

状況や立場設定	主人公の祖父が病気で倒れ、急いで病院にかけつけたいのだが、高速道路が渋滞しており、なかなか前に進めない。
きっかけ	路側帯を走る車を見かけた主人公と妹は、路側帯を走れば、スムーズに進めると父を説得する。

価値への目覚め	その後、何台もの車が路側帯を走り抜けていくが、父は厳しい表情で主人公や妹の提案を断り、路側帯を走ろうとはしなかった。
価値納得	病院に着いたのが夕方になってしまい、生きた祖父に会うことはかなわなかった。しかし、祖父の前で涙を流す父の姿から主人公は「きまりを守る大切さ」について気づかされる

(8) 板書計画

「いい」をはしれば



アンケート結果
きまりを守ることは大切である ↓ 100%
きまりを破ってしまったことがある ↓ 100%
めあて
きまりの大切さについて考えよう。

1. 今回の出来事の場合、どう考えるか。
今回は路側帯を通っても仕方ない。

2. 路側帯を走らなかつた「父」が大切にしたいについて考える。
今回も路側帯を通つてはいけない。

3. 振り返り
きまり ↓ みんなの安心・安全を守るために決められたもので、どんな場合でも守ることが大切。

写真

写真

指導の実際

(1) 導入について

【導入の工夫】

【資料1】

アンケートの結果から児童は「きまりを守ることは大切さですか。」という質問に全員が「はい」と答えており、その理由として、「守らないと周りのみんなに迷惑がかかる。」「周りのみんなに危害を加えてしまうかもしれない。」などと書かれていることからきまりを守ることの大切さについては理解していると考えられる。しかし、他者が法やきまりを守れていない時には指摘するが、自分の場合だと都合の良いように解釈したり、守らないことが与える他者への影響を軽視したりするなど、法やきまりを守る意義を理解しながら行動するまでには至っていない。その要因としては、法やきまりを守ることの大切さは理解しているものの、人間は社会的存在であることを軽視しており、自己中心的に物事を考えたり、注意されるからきまりを守るというように法やきまりを自律的な意義としてとらえていなかったりするからであると考えられる。最上級生として活発に活動を行うこの時期に、本主題を設定し、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、自他の権利を十分に尊重する中で果たすべき自らの義務を考え、進んで約束やきまりを守って行動する態度を養いたい。

<授業の概要>

(2) 展開前段について

【主人公が葛藤した場面を考える】

本教材『ここを走れば』は、祖父が病院に運ばれたという連絡を受け、急いで病院に行きたいのだが、渋滞に阻まれてしまう中、法を守るべきか、やぶってでも早く家族に会いたい思いを優先すべきか葛藤する資料である。本学級の児童は、きまりを守ることが大切であることは分かっている。しかし、「分かっているけどできないことやきまりを他者がやぶっていたら、自分もやぶってよいと考えてしまっていること」に児童の心の弱さが見られる。本教材で、ぼくや妹が路側帯を走ってでも病院に行きたい気持ちと父が決して路側帯を走らずに病院に向かう時の気持ちを比較させて考えさせた。

その後、父は葛藤の中でも決して法をやぶることなく病院へ向かう思いに着目させることで、「どんな場合でもきまりを守る必要がある。」ことを児童に深く考えさせたい。

【児童の反応】

- ・今回は路側帯を走っても、仕方がない。(8名)
 - 今、走らないとおじいちゃんには二度と会えないから。
 - 他の車も走っているのだから、一台多く走っても変わらないと思う。
 - 自分も家族が大変な目にあっているのなら、走りたくなるから。
- ・今回でも路側帯を走ってはいけない。(18名)
 - お父さんが路側帯を走ると、周りの車も真似をして路側帯を走り出すから。
 - きまり(交通ルール)を破ってはいけないから。



「路側帯を走ってはいけない」と考えている児童の方が多かったが、きまりを護るとき気持ちについてしっかり考えてほしかったため、「でも、きまりをやぶらないとおじいちゃんにもう会えないかもしれないけれど、それでも良いの？」というゆさぶりの問いかけをすると児童は、悩んでいた。

また、「路側帯を走っておじいちゃんに会いたいたい。」と考えているのが、ぼくと妹。「どんな時でも路側帯を走ってはいけない。」と考えているのがお父さんという板書をしてしたが、実は「おじいちゃんに会いたいたい」と考えているのは、お父さんも同じ気持ちだ。ということを確認した。

(3) 展開後段について

【父が大切にしたいことを考える】

展開後段では、父は「路側帯を走って祖父に会いたい」という気持ちと「どんなときでも路側帯を走ってはいけない」という気持ちの葛藤の末「どんなときでも路側帯を走ってはいけない」を選んだのは、どんなことを大切にしたいのか考えさせた。

児童は始め、葛藤場面であげた気持ちと類似したものを発表した。もっと深く「父の気持ち」を考えさせるために、父は「どんなときでも路側帯を通ってはいけない」を選ぶことでどんな人々を大切にしたいのか考えさせた。



【今回は路側帯を通っても仕方ない】

- ・心配で早くおじいちゃんに会いたいから仕方ない
大切にしているもの・・・自分、妹、父、祖父、親戚
- ・今回だけだから…
大切にしているもの・・・自分、妹、父、祖父
- ・他にも路側帯を走っている車があるから、私達も走って良い。
大切にしているもの・・・自分、妹、父、祖父

【どんなときでも路側帯を通ってはいけない】

- ・もし救急車が路側帯を通れなくなったら他の人の命が危ない。
大切にしているもの・・・救急車を必要としている人、救急隊員、ケガした人の家族、自分、妹、父、親戚など
- ・交通ルールは絶対に守らないといけないから。
大切にしているもの・・・救急車を必要としている人、救急隊員、ケガした人の家族、自分、妹、父、親戚など
- ・私たちが通ったら、他にも走る車が増えてくるから。
大切にしているもの・・・救急車を必要としている人、救急隊員、ケガした人の家族、真似をして路側帯を走る人、自分、妹、父、親戚など
- ・祖父からきまりの大切さを教えてもらった。
祖父が大切に考えているもの・・・自分、家族だけではなく、赤の他人のことまで大切に考えている。

以上のように、「どんなときでも路側帯を通ってはいけない」という考えでは、自分、家族のことはもちろん、高速道路を走っている人、ケガをしたかもしれない人など赤の他人の命まで大切に考えていることに気づかせた。逆に「今回だけは路側帯を走っても仕方ない」という考えは、自分や家族のことばかり考えていることにも気づいていた。

(4) 終末段階について

【自己を振り返る】

終末段階では、学校生活できまりをしっかりと護る児童の写真を見せた。

①児童が学級で積極的に挙手して、授業を受けている写真

- ・問題を難しいと感じている子が理解できるきっかけになる。
- 自分だけでなく、他者も大切にしている。

②学級で静かにノートを書いている写真

- ・隣にいる子も静かに学習できる雰囲気になる。

→自分だけでなく、他者も大切にしている。

③横断歩道をきちんとわたっている写真

- ・横断歩道を渡ることで、下級生の命を守ることができている。また、ドライバーも安心して運転ができる。

→自分だけでなく、他社も大切にしている。

児童は、何気ない生活場面の写真だが、きまりを守ることで周囲の人の思いや命を守っていることに気づいていた。児童に写真を提示し、説話した後、授業の感想を書かせた。

<子どもたちの感想>

8 成果と今後の課題

- ・横断歩道を渡ることは、下級生を守るためだとわかってはいたけれど、ドライバーも安心することが分かった。
- ・たまに、きまりを守ることがある。けれど、今日の道徳の学習をして、きまりを守ることが大切だとわかった。
- ・きまりを守らないと楽な時があるけど、どんな時でも守らないといけないんだなと思った。

(1) 成果

- 事前のアンケートの矛盾からめあてにつなげたことで、児童が授業でどのようなことを考えるのかスムーズに伝えることができた。
- ネームカードを活用する場面で、どちらの考えの児童にも「ゆさぶり発問」をしたことは、児童の考えが深まり、効果的であった。
- 振り返りの際に 6 年 3 組の児童の写真を使うことで、自分たちは、「きまりを守っている」ということに改めて気づき、今後の意欲につながっていた。

(2) 今後の課題

- ネームカードでは、「今回は破っても仕方ない。」「今回もきまりを守らないといけない。」という極端な考え方になってしまうため、迷っている児童も考えを表現できる方法を考えるべきであった。
- 道徳科の色々な活用を利用していくと道徳学習の幅が広がる。
(共感的活用ばかりではなく、批判的活用で行うならば、どう行うか…。)

◎ 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 道徳編
- ・道徳教育実践ハンドブック（改訂版） 福岡県教育委員会
- ・小学校道徳 「みんなのどうとく」教師用指導書・研究編 学研

ともだちアンケート

名前 ()

1 どんな時、友だちがいてよかったですか？

2 「よい友だち」とは、どんな友だちですか？

M y F r i e n d s

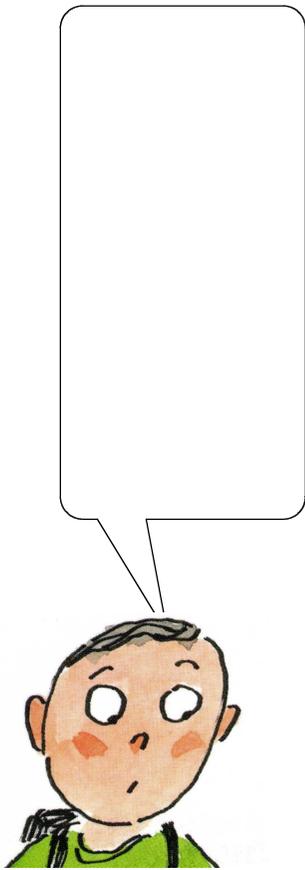


道徳プリント

名前へ

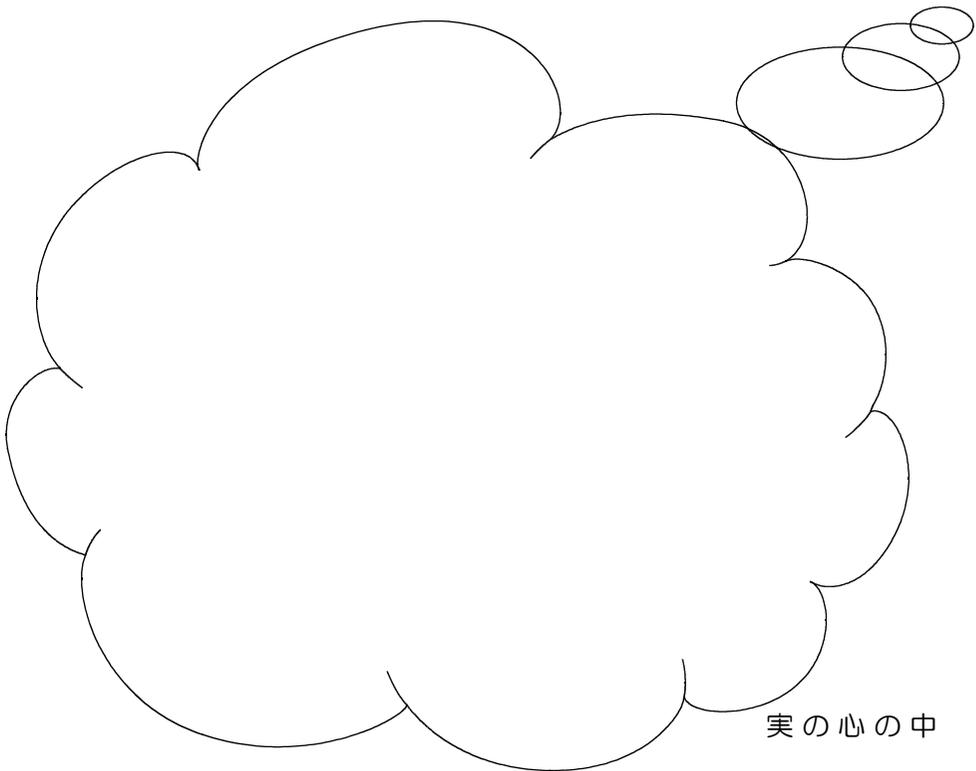
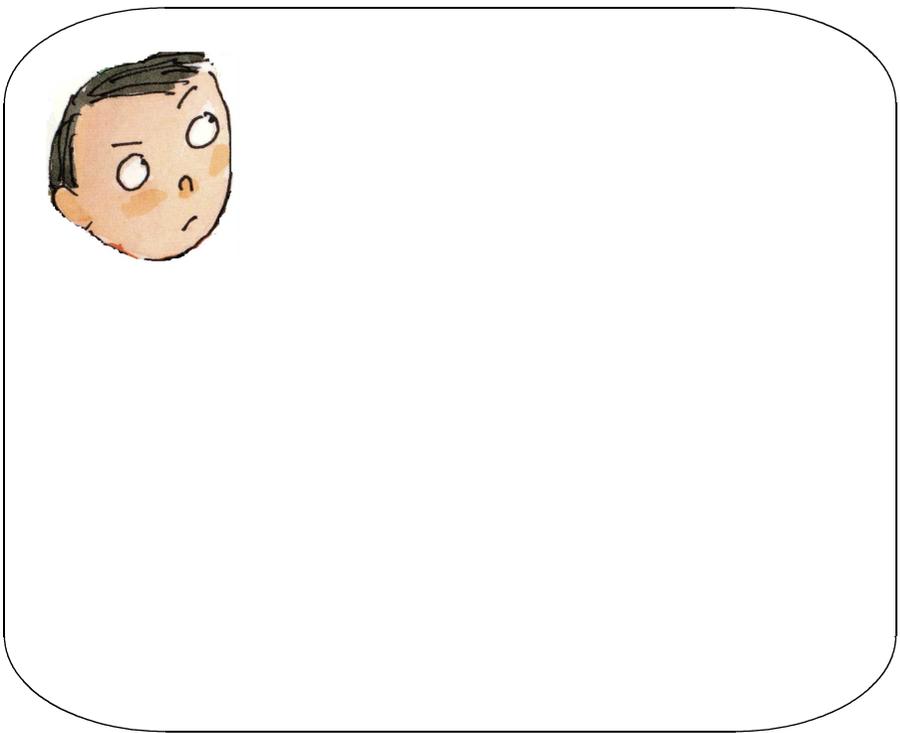
く

① 実くんが次のように言ったときの「ぼく」の気持ちを考えてみよう。



実

ぼくの気持ち



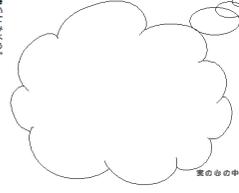
実の心の中

② 「ぼく」になったつもりで、実くんの手紙を書いてみよう。

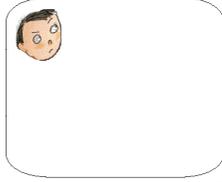
A large rectangular area with a solid outer border and four vertical dashed lines inside, providing a space for writing a letter.

Blank writing area with horizontal lines.

・自分の心算を相手に伝える「人算」



算の中



相手の人算



算



・相手の心算を自分の「人算」の中で計算する「心算」

心算

算

心算の中

友だちについて考えてみよう

なかよしだから



実くんとなかよし

だめだよ、自分でやれよ。 ※貼る

- ・友だちじゃないか。
- ・投げ方教えてあげたじゃないか・・・。

なかよしだから、なお教えられないよ。 ※貼る

- ・なかよしだったら教えてくれないじゃないか・・・



ぼく



実

- ・自分でやらなきゃ力にならないだろ

なかよしだからこそ、教えてくれないこともある。

← ためにならないから

本当の友だちは、自分のことを考えて注意してくれる。

発問計画 10:40~11:25
 最初に、以前のアンケートを配っておく。机の中にしまっておく

10:40	<ul style="list-style-type: none"> • どんな時に、友だちがいて良かったと思いますか？ • よい友だちとはどんな友だちですか？ • この間の アンケートの結果を 紹介します <ul style="list-style-type: none"> → 友だちは、いっしょにあそぼと誘ってくれる 11人 → 助けてくれる 12人 優しい 10人 → 教えてもらえる 5人 → はげましてくれる 5人 おもしろい2人 <p>☆ 確認しておく 「<u>助けてくれなきゃ友だちじゃないね</u>」</p>
10:45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">友だちについて考えてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> • いまから、「なかよしだから」というお話を読みます 二人の男の子が出てきます <u>紙①をはり、なかよしであることを押さえる。</u> • 「なかよしだから」を表だけ読む
10:50	<ul style="list-style-type: none"> • ②を貼りながら 『だめだよ、じぶんでやれよ』と言われたとき、ぼくはどんなことを考えていたでしょう <u>教えてくれないことが、くやしいことを押さえる</u> • 役割演技をしてもらいます。先生が実くんをするのでだれか、「ぼく」をしてください。 ☆確認「<u>助けてくれなきゃ友だちじゃないね</u>」
11:00	<ul style="list-style-type: none"> • 続き(裏面)を読む。
11:10	<ul style="list-style-type: none"> • {③ぼく} を貼りながら → 「紙にみんなも書きましょう」 実くんが「なかよしだから、なお教えられないよ」といったとき、ぼくはどんなことを考えていたでしょう。 ☆確認「<u>助けてくれなきゃ友だちじゃないね</u>」 →ワークシートに書かせる。 発表
11:20	<ul style="list-style-type: none"> • {④実くん} を貼りながら → 実くんは心の中でどんなことを考えて、「なかよしだからなお教えられないよ」と言ったのでしょうか。 「なお」ってどういうこと？ 挿絵で笑っているのはなぜ？ 最後にだんだんわかってきたとあるが、なにがわかってきた？ →ワークシートに書かせる。 発表
11:25	<ul style="list-style-type: none"> • 「ぼく」になったつもりで、実くんの手紙を書いてみよう。
	<ul style="list-style-type: none"> • 以前書いたアンケートを読み返し感想を発表する。 → 違いを押さえる
	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の説話